

少女達が戦っていて、整備士が戦えないはずない！

きゅーちゃん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

まだ、一作も完結してないのにもかかわらず、更に投稿する作品を増やす。今回は海では無く地上ダア!!

デッドスペースを題材にした作品は元から作ってみたかったんだよお

主人公は宇宙最強の整備士ではないけれど、武器などは出して一緒だよ。ちよつとだけま改造したけど、残酷な描写もありますので苦手な方はブラウザバック推奨です。

お話的には、過労死をした青年が転生した後デッドスペースからドールズフロントラインの世界に転送され、基地でほのぼの暮らしながら鉄血兵を改造した工具とかを使って狩りまくるお話

目次

宇宙最強の整備士に出会って生き抜くことを決意する	1
俺ってそういう感じのキャラだったの？	5
私は想像以上に影が薄いらしい	8
僕、悪くないもん!!悪いのは鉄血兵を見たら自然と照準合わせて引き金引いちやう僕の手だもん! 4 1 6 「結局、貴方じゃない!」	12
カリーナ「この人と仕事するのやだなあ」 4 1 6 「お願いします。そこをなんとか・・・」 指揮官 「君は親か何かかな？」	18
岸「貴様は、今まで潰してきた(物理)ネクロモーフの数を覚えているか?俺は覚えていない!!だが、潰す事にはもう慣れた!」 4 1 6 「もしもし、ここに猟奇殺人犯が!!」 岸「奴らは元人間だからノーカン!!」	25

宇宙最強の整備士に出会って生き抜くことを決意する

よお、俺の元の名前は岸 修哉、現在もその名前で呼ばれている。まず、この日記を書くにあたって整理する事がある。

自分はい先ほどまでブラックな会社で残業しながら本日十本目となる○ンスターを飲んで仕事に取り掛かっていた。そして突然視界が暗くなつていった所までは覚えてる。

次に起きた時は何故か、女性に抱き抱えられているという謎状況だ。

周りをよく見るとなんか手術室みたいな部屋にいるしやけに手が赤ん坊っぽいし、俗に言う転生とかいう奴だろう。

何で死んだのかをベビーベッドの上で考えていると五日ぐらい前の新聞に急性カフェイン中毒の記事を見ていたのを思い出して確信した。死因は絶対それだ。

前世の事に関して言うと、家族が心配だ。

結婚はしてないけど、親と弟がいる。といっても弟はもう大学を卒業して給料のいい有名な企業に入って献身的な嫁を連れて安定した生活を送っているから大丈夫だろう・・・

解せぬ。

俺だって努力はしたよ。ちゃんといい大学にも入ったし、大学の課題や評定もクリアしたよ。まさか、夢にまで見た大手有名ゲーム会社に就職したと思ったら、配属された部署が隠れブラックだったとは・・・

彼女いない歴イコール年齢 プラス 趣味が二次元 プラス ゲームオタクって言うモテる要素があまりない人間だったけどこんな死に方はあんまりだと思う。

まあ、嘆いても仕方ないし転生した世界は何処なのかを把握しようとしたんだが、赤ちゃんだし把握のしようがない。成長すればわかるだろうと思つて赤ちゃんの頃を過ごす事にしよう。

数年後・・・

転生した世界がどういう世界なのかわかった。そして、泣いていいですか？

どのような世界に転生したかっていうと、知る人ぞ知るホラーゲームの人気作品の一つDEAD SPACEの世界だった。

なんでわかったかって？それはお隣さんがこのゲームの主人公であるアイザックさんだったからだ。しかもまだ若いアイザックさんだ

この頃からエンジニアの仕事をしていたのか、帰ってくる事は少なかったが帰ってくるとよく遊んでくれた。

そして自分の家の職業柄エンジニアの仕事に就く可能性が高いこともわかった。

なんだよ！宇宙工学の権威ってしかも実際に宇宙船に乗って調査するめちやくちや研究熱心な家柄って！！

「修哉、お前はアイザックさんの以上の凄腕エンジニアになるんだぞ」

お父さん!?!あんた俺を殺す気!?!アイザックさんに否定しづらいじゃん。つかアイザックさん凄腕なのね。

「ハッハッハッハッ、でしたら俺ももっと勉強して技術を磨かなければなりませんね」

アイザックさんあんた後十数年したら、宇宙最強のエンジニアになってるよ。

否定しづらい家柄に主人公の師事を受ける立ち位置、ここから予想できる事は、多分イシムラ号の事件に俺も首を突っ込む事になるということだ。

嫌だ！絶対に死にたくない!!俺は生き残って幸せな家庭を築いて最後には孫に囲まれて老衰で死ぬんだア!!

という事で覚悟を決める事にした。

今からでも遅くないこの世界の知識をつけて前世で読んできた漫画やゲームの武器を作りデッドスペースに出てくる武器や装備、弾薬を製造できる技術を身につけ、いずれ来るイシムラ事件への準備を整えることにした。

更に数年後

家柄のせいかわ若干十六歳でアイザックたちのチームに配属された。ひどいと思わない？まだ高校入ったばかりかだよ？知識は下手なエンジニアより上だけど・・・まあ、しょうがない装備は家で作れたので作っていく事にした。

それまでにつけてきた知識を使って、装備に入る武器や弾薬の量を大量に増やし弾薬も

作れるやつは全て作ったし、方法も覚えた。

ネクロモーフを簡単に踏み抜けるように脚力を殴り殺すことが出来るように腕力を鍛えた。

チームに配属されて数ヶ月後、イシムラ号に向かう事になった。

イシムラ号から安全に脱出するという覚悟で向かった。

案の定、イシムラ号はネクロモーフによるパンデミックを起こしておりチームとは別れて行動していた俺にも襲いかかってきた。

しかしなあ、準備をしっかりとってきた俺には敵ではない！

ネクロモーフの四肢を素早く飛ばし動けないところを踏みつける。ネクロモーフが簡単に弾けるからかなり楽だね。

でも、残弾の量にはちゃんと気をつけなければ作れるとはいえ、作っている最中は完全に無防備だ。

とはいえ、弾は大量に作って持ってきたし（違法）、スーツにも弾やアイテムが入るように大きくしたし（違法）ネクロモーフに傷つけられたくないからスーツもそれなりに強化したし（違法）これでもうミスったりしない限り死ぬ事はそうそうない。

おつまたまたネクロモーフが来たみたいだ。しかも一匹　ふつ、
哀れなネクロモーフめこのいずれ宇宙最強のエンジンアになる男の
弟子岸　修哉がバラバラにしてやろう。妙に黒い体してるけど、大丈
夫ですよすごく私強いですオーラ出てるけど、うん大丈夫、スパー
ネクロに見えなくてもないけど、まあ楽勝楽勝

やばかった。主に生命力が、やっぱアイツスーパーネクロやん！な
んでこんな序盤に出てくるんだよ！しかも強化したスーツ全く役に
立たんし！ビツクリしたわ！足もいで頭潰してやったけどなあ!!

まだ、冒険は始まったばかりだ。待っているよマーカ。絶対に
ぶっ壊して美人な奥さんもって幸せに暮らしてやるからな。

まずは、武器を集めよう。設計図どこだったかな。

いよっしや！設計図は見つかったし、記憶もした、もちろん弾薬の
作り方もなア！

後は　2への準備を色々として時を待っただけだ

もし、アイザックさんと合流したら手助けをしながらついて行くこ
とにしよう。

俺ってそういう感じのキャラだったの？

クソ！忘れてたぜ、2は三年後の世界でその間の記憶が全くないんだった。

ヤベエ、俺もここ三年間の記憶が全くない。

装備は取られてるし、体は拘束具で動かせない。あつ研究者の一人が拘束具を外してくれた。よし、逃げるか。

どこの誰かはわからないけど、工具持ったままの死体が転がっていたので、そこからプラズマカッターを拝借、少し歩いた先にシヨップがあつたので死体から集めた金を使って装備を入手した。えっ、人としてどうかって？こんな状況じゃ倫理のへったくれもないでしょ。

アイザックさんは今頃自作した装備を持って大暴れしてる事だろうなあ。

さてこっちはとつとと、倉庫を探し出すなり設計図を見つけるなりして、武器を調達しないとパルスライフルと警備兵の装備は？ぎ取つていたから設計図に写してシヨップに読み込ませるだけだけどいかんせん金がない。

仕方がない、色々回って集めるか・・・

クソがツ！タイドマンの野郎酸素供給を止めやがった!!

ていう事はもう目玉ほじくりマンと今作の生きたヒロイン枠とは会ってるのか。

シヨップを開いてみたら、かなりの量の武器と装備が出ている一様全武器を買うことが出来るだけの金は用意できたからいいもの早く酸素供給が止められても大丈夫なところに向かわないと！

ふいー、近くに酸素供給が止められても大丈夫な所があつて良かった。しかも運のいいことにシヨップもあるし武器は全て集まったし、酸素供給が始まったらアイザックさん達を助けに行くでしょう。

あつ直った。

アイザックさんと合流し、すぐ警戒している生きてるヒロインごとエリーさんを宥めながら目的地へ向かう目玉ほじくりマンことストロースはエリーさんに任せとこう

目的地へ向かうのにストロースが邪魔なのでエリーさんに任せてアイザックさんと二人きりで向かう。

にしてもネクロモーフ無駄に多くないか？気のせいじゃないよね。

アイザックさんと一緒にネクロモーフの大軍に囲まれました。ジリ貧です。

ステイシス使っても少しずつ押され始めてきたどうすればいいだろうか？

おっとあれは宇宙空間に面した窓だ。ゲームだとあれを割ると空気が宇宙へと放出されるためネクロモーフを一掃することができるとももしかしたら、この大軍も退けられるかもということ、『バァン』よし開いた！後は上の部分を撃って緊急時用のシャッターを下ろすだけだ！

助かったと思うじゃん。まさか、ネクロモーフが追突してきて仲良く外宇宙にポイされるとは思わんよなあ。ぶつかった瞬間にアイザックさんにシャッターを下ろすよう言っと言ったから彼は大丈夫だろう。実際ポイされた瞬間に目の前でシャッターが閉まったのを確認した。

あー俺このまま死ぬのかあ、彼女も出来ず若くして二度目の人生終了かあ、泣けてくるなあ、少しくらいは幸せになりたかったなあ畜生……

ハッ!!

何処ここ？

あれ？俺死んだよねなんで緑に囲まれた森林の中に突っ立ってるんだ？

いや、走馬灯じゃないよ。デッドスペース知ってる人ならわかるけど地球は資源が殆ど無くて、宇宙開発に出ていたんだ。こんな自然は

見た覚えがない。

それに自分が今着てる装備は改造した警備兵の装備だ。武器も死ぬ前に持っていたパルスライフルだし・・・転送ってやつ？

ん？向こうから誰かやってくるな。これでどの世界にいるのかわからんものだろうか：

前言撤回、わかったわ。これドルフロの世界だ。で、あれは鉄血兵だ。しかも複数、勝てるかなあ？

私は想像以上に影が薄いらしい

鉄血兵は五体ほどでこちら辺を哨戒していることがわかった。こちらの戦闘能力がどれほどのものなのかを試してみたいので少し遠目からプラズマカッターを構えて首に狙いを定めて引き金を引く。プラズマカッター特有の発射音とともに鉄血人形の首が空高くに舞う

空に飛んだ首の数は二つ、二つ？

まさかの威力が高すぎて貫通するという偶然

うーん、スーパーネクロは何発か耐えるやついるんだけどなあ、いやまだ重武装の鉄血兵がいるし、いずれ効きずらくなるだろう。多分、メイビー。

次は、ネクロモーフを潰す時に行う手足を飛ばして頭を踏み潰す戦法も試してみよう。

攻撃されたもののこちらを特定できずにいる鉄血兵三体の手足を飛ばす。

一体ずつ斬りとばす箇所を変えて試してみた。

足を飛ばした場合は攻撃箇所である手が飛んでないため固定砲台みたいになって少しだけ厄介だった。

手足の両方を斬りとばすのは弾薬の無駄。

結局、手だけを斬りとばすという方法が一番効果的だった。

実際、攻撃する箇所である腕が飛んでいて銃弾は飛んでこないし、人と同じ構造をしているのか膝を蹴りつけると逆関節に骨が折れたかのように歩けなくなり、簡単に体勢を崩すこともできる。

ついでに頭を踏み潰してみたんだが、ちよつとだけグロかった。というか自分の脚力がおかしいことに今更気づいた。

いやあね、人の死体から出来上がる化け物を踏みつけ一発で砕くのだからそれなりの脚力が無いと出来ない芸当だよな。向こうじゃ生き抜くために鍛え上げたからそんなこと考えてなかったけど、今になって考えるとほんとおかしいことしてたなあ。

そうそう、鉄血兵から弾薬を作ることには成功したよ。パルスライフルとプラズマカタールあとジャベリンガンだけだけど、まあ主兵装がプラズマカタールだから問題はないね。

弾薬の問題は無くなったけど、衣食住の確保ができない、早めにグリフィンあたりに拾ってもらわなくちゃ！

というわけで暴れます。あ、いや別に爆弾とかを設置して一斉爆破みたいなことはしないよ。

どちらかという鉄血兵のバラバラ死体を量産させる方の暴れるだから、かつ、勘違いしないでよね！ウオエ、自分やつといてなんだけドツンデレはこんなむさい野郎には似合わんわ。

さてさて、獲物はどこかなくおついたらいた！

さあ、パーティーの始まりだ！

初日で百体ぐらい襲ったかな？全部バラバラにして頭潰して弾薬のある箇所だけ剥ぎ取ってあとは放置して形にしたけどどうなるかな。

途中市街地っぽいところを発見して探索してみたら乾パンの缶が残ってたのでありがたく頂戴させてもらった。

あと衣食住の確保だけど潰れた宿があったのでそこを拠点とさせてもらっている。

そういえばドルフロの世界はコーラップスって言うのがばら撒かれていて被爆するといわゆるゾンビだとかミュータントみたいになっちゃってしまうはずなんだよなあ。

でもここは奇跡的に安全な土地らしい、おかげで色々なところに行けるし探索が非常に楽しいし捗る。

デッドスペース時代の探索なんてたまったもんじやないあれをもう一回やれって言われたら、鉄血兵二百体を一人で殺してこいと言われた方がまだマシだ。二日目は何体殺すかノルマを決めようと思う。あれっこんな殺すことに躊躇いなくできるって凄くない？

ただいま、二日目の夜です。嬉しいことが二つあります。

一つ目は食の改善が少しだけ見込めそうです。廃墟と化した市街地を探索していたら食料保管庫らしき場所を見つけました。残っているのは乾パンと水だけという質素なものだったけど、今はそれがありがたい。

人が来た痕跡はなく安全に保管されていたためいくつか持って帰ることにした。

二つ目がなんと処刑人に会いました。

いや〜でかいね何がとは言わないけど、あと黒髪美人だよ。まあ、問答無用で斬りかかってきたから、太刀の刃の部分を切り飛ばして近接格闘でハンドガンを叩き落として、『まだやる？』って言うってやったつらさ、『覚えてやがれ〜!!』って言いながら走り去っていったよ。可愛くない？

切り飛ばした太刀の素材を使って簡易的な鉈を作ってみたらよく切れたので、鉄血兵の腕をちゃんと切り取る時に重宝しています。

その後はいつも通り鉄血兵を切り刻んできました。

三日目になりました。

アプローチはしたんだけどなあ。なかなか、鉄血以外の人形に会わない。何故だろうか？

戦闘音は聞こえるんだけどなあ。

四日目になりました。

アプローチが足りないのか？だったらバラす量を増やすまでだ！今日は二百体バラしてやる！

五日目になりました。

全く反応なし。逆に鉄血兵が五体以上の集団で行動することが多くなった。まあ、それでもバラすのだけど。

十日経ちました。

拠点が迫撃砲の外れ弾によって破壊されたので野宿です。クソオ、俺が何したっていうんだ。たかが鉄血人形を千体ほどバラバラにしたらだけじゃないか・・・いや、原因それか？

十五日経ちました。

もういいもん！こつちから出向いてやるもん！どうせ、会えないなら会えるまで戦闘を続けてやる！食らいやがれビルの上からグレポ
ン乱射！

十六日目

ただいま、グリフィンの人形達によって簀巻きにされ近くにあった電柱の出っ張りに吊るされています。

泣きそう（・ω・）

ちなみにあつたのは404小队です。

僕、悪くないもん!!悪いのは鉄血兵を見たら自然と照準合わせて引き金引いちやう僕の手だもん! 416
「結局、貴方じゃない!」

どうも! 『プルプル、僕わるい整備士じゃないよ。』 って言ったら『でも危険だから拘束』 すると言われて三時間未だに簧巻き状態の岸です。

頭に血がのぼるのでぶら下げ状態からは解放してもらいました。ただいま、職質なる尋問を受けています。ちなみに尋問官はHK416です。416 いいよね! でもUMP45もいいと思うんだ!

そんなことは置いとくとして彼女達に尋問されているのですが、信じてくれません。

なんで整備士って信じてくれないだよお〜!

「私は、今まで見た整備士の中で嬉々として戦場突っ込んで行く奴は見たことないわ」

ごもつともでございます。

とりあえず、それでも整備士が戦ってはいけないという概念はないのだから戦ってきたという旨を必死に説明する。

「じゃあ、その武器は全部元工具?」

いいや、違うよ。ちゃんとした武器も何個かあるよ。

「へえーそうなの。弾はどうやって補充してたの?」

鉄血兵を分解して腕の部分だけを使って後は加工するなりして作ってたよ。

「じゃあ、ここ最近この地域周辺で頻繁に見られた鉄血兵のバラバラ死体は貴方が原因?」

イエス! どうどう貢献できてたというかこれをアプローチ代わりにしてただけど気づいた?

拳骨が落とされました。解せぬ。

理由を聞いてみると

「貴方の所為で、ここら辺の鉄血兵だけ強力になってるのよ。知って

る？ 処刑人が腕を跳ね飛ばされて逃げていたっていう報告があった以来ここら辺は戦力が密集し始めたの！

貴方とついさつき会う前にはアイギスよ！あの重武装のアイギス！そんなものもここにきてるの！それがただのアプローチ？そのせいで私達がどんなに苦勞したのか」

なんか・・・すいません。

「謝ったらいいってわけじゃないの。お陰で日に日に増えてく強力な敵兵の量と兵器、それに比例して壊されていくその敵兵達、ここら一帯の報告書をまとめるのがどれだけ大変だったかわかる？涙を流しながらやってたのよ！私手伝えないから何もできなかったけど、もし出来たら手伝ってたくらいよ！」

脳裏にダウンロード画面の4コマが頭に浮かび、謝りたくなった。

それは置いとくとしてただいま非常にピンチです。えっ、尋問されてるから当たり前だろって？

違う違う、グレポン撃ちまくったから鉄血兵が集結して来てるの。

一樣、デートネーターの爆弾を仕掛けて置いたから爆発したら敵がすぐ近くにいるっていうのがわかるけど・・・あっ、爆発した。

「何!?今の音?」

俺が仕掛けたトラップにだれか引つかかったほいです。ほかに同行している人形は？

「いないわ。鉄血兵で間違いなさそうね。そろそろ撤退したほうがいいかしら?45この不審者どうする?」

「撤退したほうがいいわね。そのおかしな整備兵の処遇は貴女に一存するわ。」

416様お願いします。僕はまだ死にたくありません。靴を磨いたりしますのでどうかお助けください。

「なかなかいい性格してるわね、いいわ、助けてあげる。ま、あなたの基地での扱いがどうなるかは知らないけど。」

じゃあ、走るんで縄を解いてください。

「嫌よ。逃げられたり、裏切られたらたまったもんじゃない。このまま簀巻きにして引きずってあげるから覚悟しないさい。」

エッ、嫌だ「いいわね?」ハイ

「じゃあ引きずるから頑張って耐えなさい」

イテツイデデデデデ、ちよっ!もう少し優しく!

「無理に決まってるでしょ。だから我慢しなさい」

ヘルメットの中で頭がシエイクされて気持ち悪いだけでも!?

「あともう少しで回収地点だから、耐えなさい」

キツイっす。

そんな事を言っていたら回収地点に到着したようだが問題がある。

ハイエンドモデルの処刑人が追いついてきた

しかも、俺との再戦をご所望している模様。

「ようやく、見つけたゼエ。テメエは代理人からの指令で殺すことにしてるんだ。そう簡単に逃すわけにはいかねえんだ。つかなんでお前はぐるぐる巻きなんだ?」

(ワァー情報はやーい。じゃなくてこれ俺が戦ったほうがいいのではないか?)

えつとねー何しでかすかわからないからこうなった。

「ああ〜そういうことか」

納得してもらいたくない所で納得された。ムカつくなあ。

「ま、そんなのは関係ねえ、とつととその縄を外して決闘しろ!!」

「何が決闘よ!アンタ達の事だから伏兵隠してるんでしょ!」

「伏兵には手出しさせねえよ。これだけは自分一人で解決しなきゃなんねーだ」

「ふーん、何か理由でもあるの?」

「オメエらみたいな奴に誰が話すもんか!」

「あら、じゃあこいつの縄は解かないわ」

「グッ」

「ほらほら、話せばすぐ解放してあげるわよ」

「マケタ」

「何言ってるのよ。聞こえないわ」

「負けたんだよ。そこのおちやらけ赤銅ヘルメット一人に・・・」

なんか周りの空気が一変した。HK416がこちらを見る目は明らかに化け物を見る目だし、UMP45はなんかこいつ使えるなっていう目してるし、UMP9はハッ？っていう顔になってるし、G11も珍しく目を見開いてる。

そんなやばいの？いや、人間が一人でハイエンドモデル撤退させるからヤバイか。

じゃああれか、傷ついたプライドの奪還のために必死になってきたと・・・たまに、負けフラグのときあるんだよなあ。

「おい！そこのおちやらけ赤銅ヘルメット！テメエだけはなんとしてでも倒す。覚悟しろ!!」

と言われましても簀巻き状態なのでどうしようも、あつ縄が解かれた。

「なんか大丈夫そうだから、ちやつちやとやつちやいなさい」

イエス、ママ。ではでは、くらえ！開幕プラズマカッターの早撃ち！

「うおつと！危ねえ！それに当たるわけにはいかねえな。」

ほい、デートネーター。

ほんとという気の抜けた音ともにデートネーターマインが飛ぶ。このデートネーターマイン簡単に説明すると壁や天井、床に設置できるクレイモアみたいなものだ。センサーに当たる又は爆弾に接触する事により爆発する。

これの特徴は爆発前にセンサーの線状に弾丸を放つ事だ。この弾丸の威力はかなり高くそこに爆破ダメージが入るとスーパークロをも一発で吹き飛ばすぐらいの威力がある。直接撃つて当ててもいいのだが、その分何故か威力が落ちてしまうのが難点だ。しかも接触爆発なので俺に触れても爆発する。

ちなみに自分だけの呼び名で昔見ていた某子供向け料理番組からとってキリ●グマ●ンちゃんと呼んでいる。

そんなキリ●グマ●ンちゃんが処刑人に直撃し爆発する

「グアアあああつ！」

吹き飛ばされた処刑人は壁に打ち付けられ動かなくなった。

ふっ、やったぜ☆

「やったぜ☆、じゃないわよ!!こっちに何か飛んできたわよ!?後ろの壁見たら弾丸が貫通した跡があったし、下手したら私、死んでたのよ!!理解してる!!」

してます!してます!だからお願い頭を揺らさないで!

「理解したくなかったけど、処刑人がおちやらけ赤銅ヘルメットって呼んでた意味痛いほどわかったわ。」

まっ、まあ、処刑人を倒した事ですし、迎えも来てるんでしょ?早く帰りましょうよー。

「帰るのは私達であんたは連行っていう形だけだね。後、今からまた簀巻きにするから逃げるんじゃないわよ」

え、ちよっ!痛!イツタタタタ!?あのっちよっとお待ちになってさっきより縛る力強くなってる。

「あら、そんな事ないわよ?」

絶対さっきの弾丸かすめたの怒ってるでしょ!?ほらだつて足で圧縮してるじゃん荷物縛る時みたいに思いつき締め上げてるじゃん!!痛い!痛い!

「おかしいわね?さっきと変わらない力で巻いてる筈なんだけど?」

絶対ちがう!!ねえねえ、そうだよ?そこで鑑賞してるお三人方?

「416、強く縛り過ぎてるとおも」「あ”あ?”」

「いえ、してません」

「G11はきつく縛ってないそうよ。ねえ、45、9私そんなにきつく縛ってる?」

「多分、変わってないわ。」

「変わってないと思うよ」

ウワオ、慈悲なんて物が修羅の空気に吹き飛ばされてどっか行っちゃまいやがったぜ。

「全員一致という事で大丈夫締める力は変わってないから。」

NOOOOOO!!!

この日どこかの戦場で悲痛な男性の叫び声が

聞こえたとか聞こえなかったとか。

カリーナ「この人と仕事するのやだなあ」 416「お願いします。そこをなんとか・・・」 指揮官「君は親か何かかな?」

着いた! ついにグリフィンの基地に着いた!

これでこの簀巻きからも解放されるぜ!

「貴方が敵なのか味方なのかまだわからないんだからまだ簀巻きよ。」

オウフ。

「ほら、そのまま引きずられなさい。」

はあーい

「・・・君は、いつまで簀巻きのままにいるんだい?」

えーと、あの416様、私めはいつまで簀巻きでいればよいでしょうか? 後、パンツ見えていますよ。

「安全が確認できるまで、後視した罰として蹴ってあげる。昔、こういう言葉があつたんだっけ? サツカーしようぜ! お前ボールな!」

ひでぶう!! 俺を殺す気か!!

「大丈夫よ。完璧に生かしたまま蹴ってあげる」

うっわ、ここで完璧主義出すんですか

「あら、まだ蹴られたいようね」

「416、やめたまえ、気持ちはわかるが今だけはやめたまえ。後でやっていいから」

「ありがとうございます。クルーガー社長」

「ああ、うん。君がそんな嬉しそうな顔するの初めて見たんだが・・・いやそれよりも君はどういう人物でどこから来たのか教えてくれたまえ」

いや〜それがですね。記憶がないんですよ。工具や武器、自分の名前は覚えているんですが、あの森林にいる前までの記憶がないんですよ。ああ、でも貴方方に楯突くつもりはありませんよ。アプローチしたのは近くに人がいるのかいないのか知りたいだけだったんで。

(もちろん、嘘だ。でもこれで通るかな?)

「ふむ。そうか・・・今はどこも人手不足だ最前線の基地になるがそこで働いてもらおうもちろん、下働きだがな」

わかりました。(チツ、いやでもここで即刻死刑みたいなのにならなくてよかった。それに下働きでもできるんだ。やってやるぞそしていつか周りがピンチになった時に颯爽と敵を倒してドヤ顔でいい感じの地位へのし上がるんだ)

しかしこの男は、わかっていない。今までやってきたことがどれほど裏目に出ているのかを。確かに、やってきたことは人にとつて役に立つことである。だが、敵を倒し過ぎたために敵の量と強さが圧倒的に高まつたり、気づかれたいが為に敵陣に向かつてグレポンを乱射した拳句、簀巻きにされて引きずられたり、敵の幹部的存在を倒した為にその幹部に若干、追われていたりとなにかと裏目に出ている。そう、上のこいつの思想はフラグである。

ん?だれか俺の悪口言わなかったか?

「あんたに悪口言いたいやつなんて山程いるでしょうね。はあくにしでもなんでこいつのお目付け役が私たちなのよ」

「大きい任務もないし、次向かう所がおちやらけヘルメットの行く先が私達と被っているし、もつともこいつとの接触が長いのも私達だからしょうがないじゃない?」

「ねえ、45なんかニヤニヤしてるけど、なんで?」

「あら、11わかっちゃう?」

「うん、だってあまり見ない顔だし」

「これから、行く所がのおちやらけヘルメットがいたところに一番近い基地なのはわかる?」

「うん」

「で、この前、処刑人を目の前で倒したってことはこちら側に来たことが向こうに明確な事実となって届いたはずよそしたら、向こうはどう対処しようとするかしらね」

「軍隊率いて攻めてくる?」

「うーん、もしかしたらそうなるかもしれないけどでも攻めにはくるでしょうね」

「めんどくさいよー」

「11多分一番大変なのは416だから」

「そう思うけどさー」

「じゃあ、あんたこのおちゃらけヘルメットの相手してみる?多分、面倒臭くなつてあんた寝るわよ」

「やめとくよ」

「416私は?」

「9は、耐えられるかもしれないけどこいつの煽り方結構めんどくさいからね。正直わからないわ。普通に接するかもしれないし、仲良くなるかもしれないし、笑顔で頭撃ち抜いてるかもしれない」

「ふくん45姉は?」

「私よりか冷静に対処するでしょうけど、こいつの顔面が凹むのが早いんじゃない?」

「私の手も怪我しそうだけどね」

あのく話してる中大変申し訳ないのですがお腹が空いてきましたでござる。

「あら、昨日基地で食べなかったの?」

いや、簀巻きのまま置いてかれたんでヘルメットの中に隠しておいたクラッカーでしたよ。

「ダメでしょ、416ちゃんにご飯は食べさせなきゃ」

「その時は用事があったから9に任せただけど」

「ごめんなさい」

「次からちゃんとやるようにね」

「はい」

最早、ペット扱い!?

「だって枕にするにせよ硬いんだもん」

枕にならなかつただけよかつたわ

「そろそろ、着くわよ準備しときなさい。あつそういえば、そこのお

ちやらけヘルメットに合わせたい人がいるんだったわ。簀巻きはその後に解除してあげる」

わーいやったく。で、合わせる人とは？

「今行く基地にいる報告書とかまとめてくれる後方支援のカリーナさん」

・・・いやや!! 俺はまだ死にとうない!!

「キャラ壊れてるよ?」

「安心して完璧に治療してあげるから」

違う、そうじゃない!! つか俺が怪我するの前提?!

「だって話したじゃない。泣きながら仕事してたってその報いよ」

報いって言っちゃったよこの人!! いや人形!!

「安心して、骨は拾ってあげるから」

「騒がしなくなつて寝れそうだからどうでもいいや」

「たとえ家族でも悪いことをしたら罰を受けるのは当たり前でしょ」

ワアオ、これぞ四面楚歌。

「さあ、着くわよ。そこのおちやらけヘルメットは歯をくいしばる準備をしときなさい」

はい

基地に降りてまず連れていかれたのはカリーナとここの指揮官がいる執務室だった。

そして出会って早々に

「ふん!!」

イツテエ!!

思いつきりレンチで殴り倒され

「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラ!!」

レンチによるオラオララッシュを受ける岸君であった。

十分後・・・

コフツ、ウオオオオオイトエ口の中切った

スーツだけやけにボロボロの岸が立ち上がる中満足そうなカリー

ナから自己紹介が始まった。

「指揮官様の後方幕僚を務めさせていただきますカリーナです。よろしくお願ひします」

えっと、整備兵兼工兵の岸 修哉です。経過観察中でふが頑張りましゆ

どうやら口を切ったようで話し方がどうもおかしい。

指揮官の自己紹介は割愛

「どうして!？」

「だって名前決まってるだもん。性別は女性にしてるけど名前がどうしても決まらなくてね」

「メタいなあ」

「すまぬす」

「別にいいよ次からお仏壇って呼ぶから」

「あだ名が多すぎてそろそろ数えきれなくなってきたよ」

「ということですよしく頼むよ岸君」

だいぶメタいな。そんなことは置いてこちらこそよろしくお願ひします指揮官!

「早速、なんだけど整備士なんだよね?」

ええ、そうですが何か?

「いろんな所を紹介してもらおう時に修理を頼まれるだろうから、修理しといておくれるかい?」

合点! 承知の助!

「じゃあ、案内役は9A-91だから仲良くしておくれよ。一樣、HK416にもついてもらういいよね?」

わかりました。では、修理にいつてきまーす

いやあ、この基地オンボロすぎじゃない?

直したよ勿論。だけどね。故障箇所が多すぎたり、直すどころか部品を取り替えもしないといけなくなるとは思わなかった。

パイプは穴空いてるを通り越して裂けてるしバッテリーは中身を

交換しないと減りすぎて機能してないし。ああ、でも空調は流石に壊れてなかったよ。

「流石、自称整備士ね。原因も直すのも完璧にできるとは・・・」

416さん、ちゃんとした整備士ですよ。俺は・・・

「でも、直してくれたおかげで基地が快適になりましたので私としては凄く嬉しいです」

いえいえ、これが我々整備士の仕事の一つですから当たり前のことをしたまです（9A-91は癒しですな）

「でも本当に直す時の手先の器用さには舌を巻くわ。」

直す事が本職だからね。一樣、どのように機械が動けば暴走したり壊れたりするのもわかるかなかなり大型の罠を作ること也有可能だよ。

「それは怖いわね。私達は資料で読み込めばわかるけどそれ以外だと専門に聞かないとわからないから仕掛けられたら気づかないかもしれないわ」

にしてもなんでこんなボロボロなの？

「最前線のせいかわ送られる人材が少ないですよ。ここもいつ潰れるかわかりませんしそれにここ拠点としてもかなり危険な位置でして、鉄血以外も攻めて来たりすることがあるんですよ」

えつとE・L・I・Dだっけ？そんな強いの？

「いえ。強度などはそこまですが、攻撃力や形状の多さ、その姿から苦手とする人形が多いんです。かくいう私も苦手です」

「私も倒せないわけじゃないけど一部苦手な形をした奴はいるわね」

へえ〜慣れないもんなの？

「慣れませんか」

「慣れないわね」

ふ〜ん。

「そういうあなたはどんなのよ？」

まだ見てないけど多分大丈夫だよ。

「なかなかの自信ね根拠があるのかしら？」

あるにはあるけどここから先は話せないかな。

「でしたら、今日の夜にE・L・I・Dが近くにいるか偵察するのでその時交戦状態になったら手伝ってくださいますか？」

いいですとも指揮官が許してくれればだけど

「早速、意見してみましよう」

「ねえ、これ私も連れてかれるパターンじゃない？」

まあ、俺の監視がありますし、仕方ないのでは？

「はあ、あれトラウマなのよねえ」

416のため息は誰の耳にも入らなかった。

岸「貴様は、今まで潰してきた（物理）ネクロモーフの数を覚えているか？俺は覚えていない!!だが、潰す事にはもう慣れた!」416「もしもし、ここに猟奇殺人犯が!!」岸「奴らは元人間だからノーカン!!」

9A191が岸を夜戦に参加させるために意見を言いに行った数分後、意外にもOKされたため嬉しそうな顔をして戻ってきた。

「整備士さん！OKもらいましたよ！早速、今日の夜戦はよろしくお願いたしますね!」

こちらこそ、よろしくう!

「夜戦の時に逃げる可能性があるから一様45も連れて行くからね。離れないようにしなさいよ」

あい。

あつ、そうだ!工房貸してもらっていい?武器を少し改良するから。

「カリーナさんに言えばいいですよ」

ありがとうございます!

カリーナに言ったら普通に貸してくれたので早速改造を始める。

今回改造するのはFlame throwerだ。

簡単に言えば溶接工具であり、世紀末エンジニアに御用達の無酸素状態でも使用できる優れものだ。

今回はそれに飛距離を伸ばすための改造を施す少し重量がかさむだろうが飛距離を伸ばせるのなら丁度いいだろう溶接はガスバーナーが多いがこの工具はなぜか液体燃料だ。しかも、少しの間燃えるし粘着性もある。

溶接としては正直失敗もいところの工具だが慣れると扱いやすいし何より無酸素状態でも使えるというおかしな利点がある原理を聞いてみようと思ったがそこに至る過程の時点で頭がおかしくなりそうだったので聞くのはやめた。

セカンダリとして燃料槽を焼夷手榴弾のように射出する機能がある欠点としてはバウンドして味方に当たる可能性がある所だけだ。射程距離を上げるだけの改造を施し、あとは夜戦の時間になるまで404小隊のいる宿舎でゆっくりと本を読んだ。

夜になり、夜戦の時間になったとフレームスロワーとプラズマカッターを持ち夜戦に出る部隊には9A-91は勿論のこと榴弾スキルのあるFAL、ドルフロのツンデレキヤラの代名詞WA2000ことわーちゃん、占いがすごい当たると有名なK5、最後に今回初参加の416と超パーフェクトでカッコいい整備士の岸だ。

おい誰だ。ただのおちやらけ赤銅ヘルメットって言ったやつ。

まあいいや。そして絶賛顔合わせ中なんだけど、あまりいい目で見られていない。

当たり前だよな。整備士なクセして人間が変異したやつを倒したなんて言うのだから当たり前かな？

戦つてれば次第と慣れてくれるだろうと思いたい。

ちなみに私、岸はELIDを倒す為の特別兵士として組み込まれている。一樣、医療の知識もデッドスペースで生きるのに必須だったから治療はできるけどね。

そして夜戦に出発して数分早速、鉄血兵と接敵したが問題なく倒しているのが現状だ。

「無事に終わりましたね」

「そうね、ELIDも湧かないし後ろにいるあの新人？はいらないじゃないかしら」

「湧くとも限らないから、置いといて損は無いと思うけどね」

「私はお目付け役としていなきやいけないから今、撤退することはできないし貴重な榴弾持ちだからいた方がいいでしょ？」

「そういうえば、整備士さんも投擲物を持っているんですよ？」

そだよー、榴弾じゃなくて焼夷弾だけどねー

「なんだかベクターとおんなじような感じがするんだけど・・・」
「それは無いと思うわ」

「二様、言つとくと榴弾一発で処刑人を沈めているから焼夷弾を放つた時も近くにいるのはオスメシないわ燃えて死にたいのなら突撃してもいいかもね」

「やめとくわ」

などと主にこちらの事に関してを色々聞いたり話したりをしているとお目当ての敵が戦闘音によってやってきた。

「うわあ、今回はわりかし原型を残しているのが多いわね」

「整備士さん出番ですよっっちゃってください!!」

りよーかい、整備士岸いきまーす。

外見的にはバイオ●ザードとかウオーキ●グデツドとかに出てきそうなELIDが走ってこちらに向かってくる試し撃ちとして先頭にいるELID達に向かってフレイムスロワーのトリガーを引くと勢いよく火をまとった液化燃料が放たれ火だるまにしていく一様死体であるせいか簡単に燃えて朽ちて倒れていく。

燃える勢いはこちらの方が早いようだ。

後方にELIDが複数固まっていたので燃料槽を射出し爆発させる

一番前にいたELIDは爆散に近い形で死んだようだが、後ろにいた奴はそうでもなかったらしく液化燃料がついたところから燃えだし炎はすぐに全身を包み込んだ。

タンパク質は燃え辛い物質に入るのだが、コーラップスに汚染されているのが原因かすごい速度で燃えていくというか燃えすぎじゃね？

体がガソリンで構成されているのかな？と思ってしまうレベルで燃え広がっていくので軽く心配というか不安になってしまふ。いや、いつか爆発するじゃないかって意味で・・・

たしかに姿形は一般の人が見たら気絶するレベルで凄惨なものである事に間違いはない。

しかし燃えすぎだ。

ある程度痛覚がある個体もいるらしく悶えながら燃えるせいでも嫌な気分になる。

ELIDの群れを一通り焼き払い後ろを向いてみると完全に引かれていた。

わーちゃんとFALは顔をしかめており、9A191とK5にいたっては顔が青ざめプルプルと震えている状態だった。何故か、HK416だけムツとした顔でこちらを見て話しかけてきた。

「あら、いつものようにふざけないのね？」

いや、そりゃあ人を燃やすのに気分が乗ったらダメでしょ。相手が完全に化け物なら少しは面白いことも言えたでしょうがあんな苦しむような動作をされたらねえ

「また出たらよろしく頼むわね」

ハイハイ

その日はもう二回ほどELIDと接敵したが同様に燃やして炭にした。

もっと手ごたえあつてかつ人間ぽくない奴っていないかねえ？

「彼の夜戦投入どうだった？」

「火炎放射器に近い武器で敵を炭化させてました」

「ふくん。戦闘を見た感じはどう？危険人物に見えた？」

「危険人物ではないと思います。殺しをすることには躊躇いはないようですけど・・・」

「彼と話してみたいのだけどできると思う？」

「多分、できますよ！ペルシカさん!!」

「その多分が不安なんだけど・・・」